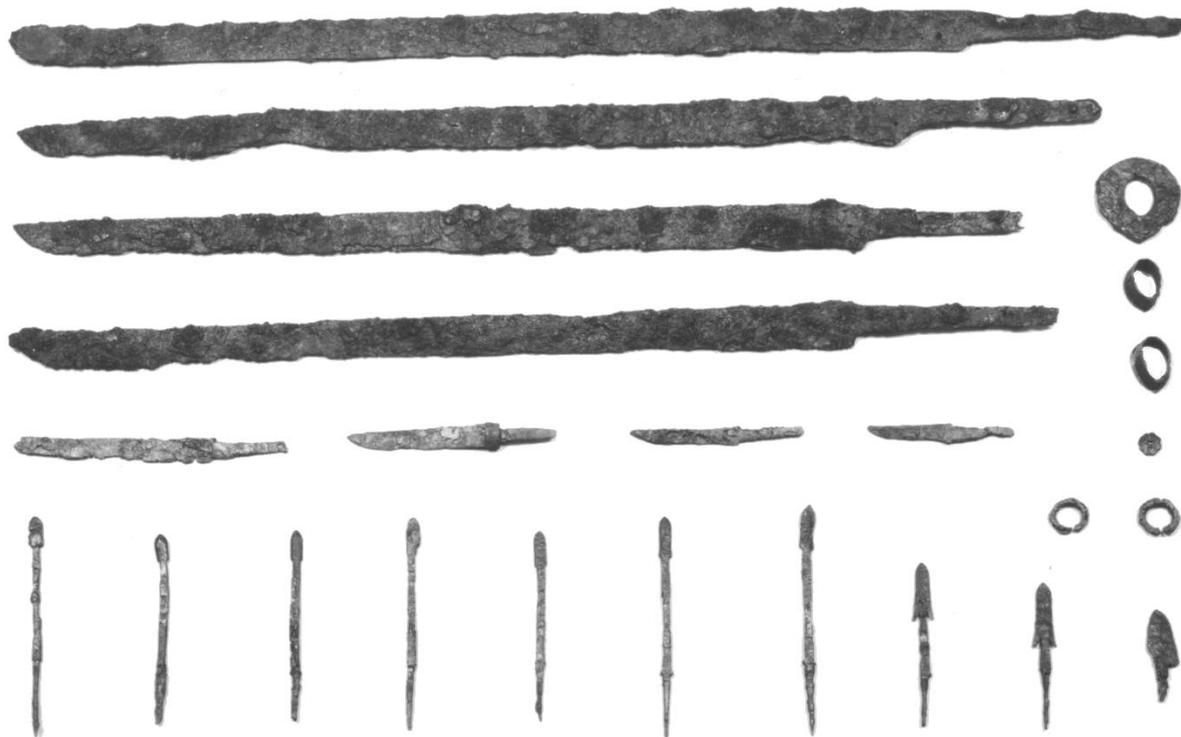


都指定有形文化財

平山 2 号古墳出土品



昭和 52 年（1977 年）、平山地区の区画整理事業の個人住宅建設に伴い調査を実施した結果、2 基の古墳を確認したが、そのうち、2 号古墳石室から副葬品の直刀 4 口、小刀 2 口、刀子 5 本、鉄鏃 49 本と、耳環 2 点などが出土した。浅川河岸段丘上に位置する平山 2 号古墳は、河原石積みの横穴式石室を主体部とした、直径 15m の周溝をめぐらす円墳である。本墳は、多摩川の中流域中部における古墳として初期のものであり、石室の構造より古墳時代後期（6 世紀後半）のものと考えられる。石室内より出土した多量の鉄製武器は当地域に伝播した古墳被葬者の性格を示すものとして注目される。周溝内より出土した土師器杯及び石室充満土中より検出された須恵器の破片は、ともに本古墳の構築年代を示す資料であり、石室構造の在り方と年代的に矛盾するものではない。

（『日野市の文化財』 1994 年 3 月 31 日発行より）

平成 2 年 3 月 22 日指定

※無断転載・使用及び別の媒体に収録して再配布する等禁止。